

レースっていいよね
第55回「春よ、こい」の巻

第43回「春は痛い季節」を書いてから、もう1年が過ぎた。
毎年毎年、この季節になると「同じ想い」が巡り巡る。私にとって、そういう季節なのだ。
特に今年は昨年末からの出来事もあり、ことさら感受性に富んだ「想い」に浸っている。

話は飛ぶが、私は自然の移ろいには敏感である。温度、湿度、色、匂い、およそ感じる限り
全ての器官で、様々な変化を捉える。
1年のうち、春を迎えようとしているこの時期は特にその感覚は鋭敏になっているようだ。

ひとりクルマを運転している時、何気に空を見上げると、そこには美しく輝く月と星の数々。
顔を撫でる風はまだ少し冷たいけど、それがまた妙に心地良い。

こんな時、決まって思い出すのは「過去」である。
いや、これはもう既に第43回で書いてるか・・・。
今年の春は、ことある毎に「いろんな顔」を思い出しそうだ。

多分、ひとりの寂しさを噛締めている今日この頃だけに、余計にヒトとの繋がりを
重く感じているのかもしれない。

ふと見上げると、夜空に輝く月。この月を、あの人も見ているのだろうか。
見事に咲き誇る梅の花。この花の色の鮮やかさを、あの人にも伝えたい。
峠道。ペダルを、シフトを操り、右に左にステアしながら、この高揚をあの人と語りたい。
ドラマティックなこの瞬間を、大切な人達と分かち合いたい。

でも、この春は文字通り 別れの春 となりそうだ。
元2輪レーサーのHせ見さんはWGPの開幕を待たずに中国へ流刑・・・いや、転勤というし
後トちゃんは春ではないけど、年内には英国へ亡命・・・。いやいや、留学というし。

会いたい人が、今、会っておきたい人が多すぎる。
みんなに会いたい。いろんな話がしたい。

ただ、会えない人というのもある。
つい先頃、私が恋愛番長と呼ぶ、豊田市のS澤代表取締役役に、こんな釘を刺されたからだ。

「オトコは絶対に、オンナを大切にしなきゃだめよ」

「オンナはストーカーになってもいいの、思う存分、諦めがつくまで。でもオトコは駄目。
だって、オトコは体力的なコトとかあって、本当に怖いじゃない。」

「オンナから会いたいって言うなら、その時は会ってあげて欲しいの。でも、オトコは
失恋した相手には電話とか、ましてや自分から会おうのを誘ったりしちゃ駄目。
また連絡して、オンナは傷ついたりすることだってあるんだから」

「オトコは絶対にオンナを傷付けちゃ駄目なのよ！」

フェミニズムを地で行く人である。
この話をしていた時、「何と理不尽な・・・」と、正直なトコロ思ったのだが、考えてみれば

もっともだなあ、と今は納得している。

クルマを運転しながら、ふと助手席に目をやると、そこにはただ空間が在るだけだ。
いや、実際はそれは物質的な空間などではなく、私自身の心の空虚なのだろう。

春よ、こい。

いつか、この美しい瞬間を分かち合える、いつも傍にいてくれる誰かと過ごせますように。

